

中経 論壇

経営支援 NPO クラブ 参与
吉田 仁



総務省の統計によれば、日本の総人口は2008年をピークに減少に転じ、今後急激な減少が見込まれている。一方で、高齢者人口は増加し、2030年には65歳以上の比率は、30%を超える。その影響はさまざまな分野に表れるが、産業界では人手不足が深刻な問題になる。パーソル総合研究所の推計では、その年には6百万人以上の人手不足に陥るといふ。人口減少と少子高齢化の加速の中で、それを乗り越えようと努力している会社がある。

宮城県の和光技研工業は、細物の精密旋盤加工を行って

いる会社であるが、品質検査装置を開発し、それを事業の第二の柱に据える方針を立てている。その経緯は、まさに人手不足と高齢化が原因であった。同社では、自社製品の品質検査を社員3人で行っていたが、検査員が高齢になり、視力の衰えから要員の交代を検討した。しかし、人手不足で要員確保が難しく、自動化をはかるため、検査装置の開発を自ら行うことにした。

ものづくり補助金を活用し、2年かけて自動外観検査機Wakooを開発し、現在12時間稼働している。装置の信頼性や検査コストの削減をはかると同時に、振り分けを合・否だけでなくグレーと判定不能の四つにすることで、

中小企業の挑戦

異常原因の特定を容易にするよう工夫している。この導入費用は3年で回収できる見込みという。なにより、人手不足の解消につながったことが大きい。開発にあたった渡邊会長は、同じような悩みを抱える企業は多いと考え、自ら開発に携わったノウハウを生かして、他社の品質検査装置の製作受託を目指している。企業ごとの部品検査の違いに合わせて、Wakooをカスタマイズするのである。相手方製品の内容を把握するため、共同開発という形になるとみている。

中小企業にとつて、この事業化には解決すべき課題が多

いのも事実である。県の産業支援の公益法人を通じ、当経営支援NPOクラブに相談がなされた。まずは、対象企業を探すための営業である。同社にとって、営業のための専門人員の確保は難しいので、自動外観検査機の営業用APIの仕方を工夫する必要がある。そして、一番大きいであろう課題は資金繰りである。カスタマイズには相当の日数を要するが、その間の資金をどうつなぐか。開発の節目で経費の精算を相手方へ求めることにしたいが、相手方が中小企業の場合、簡単には応じられないだろう。その他、開発人員確保など社内体制の構築や装置の保守といった解決すべき課題は多い。

しかし、和光技研工業にはぜひ頑張ってもらいたい。ここには、企業連携の芽がある。日本の中小企業は全体の99.7%で、日本の産業構造を支えていると言われるが、今後、中小企業同士が連携し、互いに足らざることを補い合うことが重要と思うからである。われわれNPO法人もできる限りの支援を行いたいと思っている。

宮城県の中小が検査機に進出